

の市民会館で一斉公開を行ない、2,000名を越える人々に広く鑑賞され深い感銘を与えた。

11 県視聴覚ライブラリー

(1) フィルム所有状況（本数）

種別	所有	40増減	損傷分	使用可
県備品	513	+ 10	109	404
U. S. I. S	295	- 236	23	272
県選管	126	+ 4	12	114
計	934	- 222	144	790

(2) フィルム利用状況

① 学習者数と利用回数

年間	69,390名	1,094回
一日平均	190名	3.0回

② 使用会場

会場	使用回数	%
公民館	350	33.0
学校	330	32.0
集会場	176	18.0
私宅	88	11.0
野外	50	6.0

③ 学習者の層

層	利用回数	%	層	利用回数	%
青年学級	130	12.0	青少年団体	104	10.0
婦人学級	140	13.0	成人団体	134	12.0
社会学級	40	3.5	P T A	28	2.5
小学校	136	12.5	一般大衆	148	13.5
中学校	64	5.5	指導研修者	34	3.0
高等学校	136	12.5			

④ 文部省企画録音教材

所有本数 893本、41年度増加分98本、損傷分なし、この録音教材を再録音して送付した本数 500本で、これらはさらに再録音されて各種学級や団体、小中学校高等学校の教材として利用され、一部は有線放送にも利用されている。

12 各種教育映画フィルム巡回利用

(1) へき地巡回利用教育映画

① 趣旨 日常すぐれた映画に接する機会の少ないへき地の青少年に対し、よい映画を鑑賞する機会を与え、健全な教養をつきかき社会教育活動の促進に資する。

② 期間 昭和41.8.15 ~ 9.25

③ 地区 南会津教育事務所管内

④ 参加人員等 7回場 10回 1,410人鑑賞

(2) 科学技術映画

① 趣旨 科学技術映画の利用を効果的にし、科学技術の振興に資する。

② 期間 昭和41.4.1~42.3.30

③ 地区 福島、郡山、田村

④ 参加人員等 39回場 49回 3,708人鑑賞

(3) 文化財映画（第7節、文化財の保護の項掲載）

13 県内ライブラリーの状況

ア. ライブラリー数 25

イ. ライブラリーの内容

予算総計 18,449,000円

（内、公費 5,910,000円、その他12,539,000円）

教育映画フィルム所有本数16ミリ映画フィルム総数は4,617本、8ミリ映画フィルム総数は1,016本、学校教育用社会教育用その他の内訳

内訳	学教用	社教用	教育劇その他
16ミリ	3,571	576	470
8ミリ	958	58	0

貸し出し範囲学校教育のみ8、社会教育のみ3、学校社会教育とも14。

専任職員のもつライブラリー数10、計12名

第6節 芸術文化

1 概況

山村へき地、農漁村の多い本県では、地域による格差が大きいので、芸術文化の振興には長い年月を必要とする。

健康で文化的な県土開発と創造性豊かな県民づくりをまぎして、本年度は特に

- 県民の芸術文化活動の助長
- 県民のすぐれた芸術の保護奨励
- 文化施設の整備
- へき地の文化振興

につとめてきた。

これらを通じて、県民の芸術文化への創造活動や鑑賞の機会への参加は、年を追って増加し盛んになりつつある。

また、へき地の文化導入計画、合唱団の辺地巡回公演も第2年目となり、巡回地域へ多くの影響と効果をもたらしている。

しかし、文化施設の整備は、未だしの状態にあるので、既設の公民館等を増補するとともに設備についても大いに努力する必要がある。

2 第20回福島県総合美術展覧会

(1) 日時 昭和41年6月12日～6月19日

(2) 会場 福島市福島県営体育館

(3) 応募数

区分	公募		招待 依嘱数	総陳 列数	総搬 入数
	搬入数	陳列数			
第1部日本画	101	73	19	92	120
第二部洋画	279	152	55	207	332
第三部彫塑	58	38	14	52	72
第四部工芸	36	30	14	44	50
第五部書	180	147	33	180	213
物故者遺作計	654	440	135	600	812

(4) 運営委員および審査員

□ 運営委員長 ○ 審査長 ○ 審査主任

運営委員

□ 青津清喜 阿部七郎 遠藤正三 大山忠作 加藤五郎
春日部たすく 照井久良人 中沢帰雲 藤本竹亭
三坂耿一郎 高橋良一郎 針谷三男 渡辺到源

審査員

日本画 ○ 酒井三良 大山忠作 中野蒼穹
洋画 ○ 山川忠義 春日部たすく 青津清喜
若松光一郎 佐藤睦郎